

十一月二八日 つづき

十九時まで学科会議。二〇時前世田谷に戻る。中日新聞にオーブンテックハウスの記事が出ていて仲々良くまとまっている。

十一月二九日

朝七時四〇分新宿西口スバルビル前TV番組製作のルーカスの連中と待ち合わせ諏訪の藤森宅へ向かう。中央高速は天気も良く八ヶ岳山麓では南アルプス、北アルプスが遠望できた。二週間後はネパールだが、ヒマラヤと比べると日本のアルプスはただの地ブクレだな。宮川の守屋神長館には十時過に到着。山に入って何やら木を探していたらしい藤森照信と会う。すぐ製材所を紹介してもらい、木材の打ち合わせに入る。要するに藤森が住んでいる村七〇軒が共同で山を持っていて、その山で獲れる木を製材している処のようだ。藤森の説明はおおまか過ぎて解らんところもあるが、大筋は流石に明快で解り過ぎる位に、良く解る。赤瀬川原平宅建設の模様を赤瀬川氏が、「我輩は施主である」に詳しく書いてあるが、その伝中、藤森教授故郷で木を得るが誠に面白いのだが、私もその情景に入ってきてしまったようだ。ここは藤森王国だな。なぜか藤森が私の設計の家の材種その他を決めてしまい、ウムウムここは栗だな、赤松も良いぞなんて言い出す始末で、まこうなったら藤森領主に任せるしかないのである。なにしろ、ここは藤森王国なんだから。山に入り、この木が良かろうと目星を

つけたが、自然の中の木の太さと家に使う木の太さと、まだ頭の中ではピッタリとこない。施主を連れて来い、この木ですよ、アナタの家を作るのワと説明してヤレ、施主の覚悟は一段と高まるぞ、赤瀬川さんなんかそうだったぞ、と藤森教授は増々絶好調で私を感化し始めてしまう。

でも仕方ない事で何しろここは諏訪大社の御柱の里、藤森王国なんだから。

蓼科山の麓のもう一つの栗の木を扱っている製材所も訪ね、栗の木は頼んでしまう。王国に戻りソバを食べて再び製材所で打ち合わせ、十二月中旬までに見積りを出してもらうことになった。模型と図面を置いてくる。切り出した木は藤森さんとこの畑に置かせてもらう事になった。もう一度山に入り、大体こんなものだろうの木に印をつけ、東京に戻った。面白い一日だった。藤森領主のお陰でした。

十一月三〇日

十時地下へ。松本とチョツと大事な話し。十二時前西調布で聖徳寺の打ち合わせ。午後一時、星の子愛児園コンサート。ホールは満員の人で、本当に上手に使って下さって嬉しい。いらした皆さんに設計者として紹介される。

十五時大学。公開講評会。少し年輩の方も見えていた。本当の公開になってくれると良いね。十九時計画系の先生の会。入江古谷鈴木了二と会食。

十二月一日

今日は休むぞ。コテンコテンに休むぞ。毎日新聞に藤森教授が書評を書いている高知の沢田アパートは見てみたい。また、京都

の四条にこれ又、藤森が作っているらしい秋野さんの樹上の茶室も見たいな。鈴木博之より電話、原稿その他の件。いよいよよまとめるか。

十八時前我孫子真栄寺へ。立松和平、我孫子市町等と会食。二時三〇分世田谷へ戻る。結局今日も動いてしまった。

十二月二日

早朝藤塚より電話、今日天気が良いから十時位から星の子愛児園の撮影ヤルカラだと。スタッフ誰も居ないから俺が立会うか。

続いてハンマからも電話入り、やっぱりTVは奥さんのタマちゃんがいやがつてるからとの事。直接ディレクターと連絡してくれと伝える。TVは難しい。星の子愛児園撮影立会い。十三時大学MM¹²の仕事を見る。十五時人事小委。十七時過終了。十八時過世田谷に戻る。

十二月三日

九時伊豆安良里藤井晴正世田谷来。TVの件打ち合わせ。十四時有楽町マリオン朝日新聞大西氏。汐留見学十六時迄。十七時大¹学人事小委員会打合わせ。雑用をすませ、十九時磯崎アトリ工訪問。フイレんツエのコンペ案を見る。これは良かった。磯崎新は若い。次女友美と共に磯崎家で愛子さんと共に磯崎さん手製の Pasta等御ちそうになる。

フイレんツエ 駅のコンペ案はフラットな屋根をコンピューターの自動案出だという構造体で支えたもので、その構造体は見た事がないような形態を持っていた。中国人の若い才能がDr論文で提出してきた理論を構造家がピックアップしたものらしい。伊東豊雄の非線型構造体理論といい、磯崎のフイレんツエのコンペ案と

いい、何か新しい構造の考え方が出現し始めている気配がある。ノタノタしていられないぞこれは。二十三時三〇分世田谷戻り。